［長崎県病院企業団通信］

ふくよか

2017夏号
■長崎県病院企業団本部
■平成29年7月発行

新規採用職員全員集合!!

目次 CONTENTS

p2 …… 企業長より
離島の人口減少を考える【その二】

p3 …… 病院ＴＯＰＩＸ
有川医療センターで在宅血液透析を導入

p4 …… 特集① 平成２８年度決算見込み概要
速報値をお知らせします

P6 …… 特集② DPC導入と課題ーシリーズ③ー
最終回 クリニカルパスについてご紹介します

p7 …… ちょっといいはなし
新規採用職員研修報告

p8 …… Break Time
［図書館に行ってみませんか？］

vol. 12

離島の人口減少を考える【その二】

企業長　米倉　正大

国土交通省は「**2050年ごろには日本の人口は1億人を切り、65歳以上の高齢者は40％を超す**」と発表している。予測にあたり不確定な要素はほとんどないと言われており、現にこの報告書が発表された11年から現時点まで、予測どおり人口は減り続けている。50年といえば、わずか30数年後であり、私たちの孫の時代である。ちなみに、長崎県病院企業団が医療を提供している**離島人口は、40年には約11・3万人から約6・9万人まで減少し、高齢化率は50％を超える**という予測になっている。ほんの20年先のことである。この現実をしっかり受け止め、医療福祉の提供システムを考える時期に来ているように思う。

今の離島・へき地は、高齢者の医療・介護分野を担う若者の不足という大きな問題を抱えている。中でも看護師、介護士、看護助手などで、夜勤もできるような人が少なくなっている。限られた人材で、医療や介護の質を落とすことなく続けていくには、いかに効率よくやっていくかということが重要になってくる。

「その一」でも取り上げたように、地方における人口減少の大きな原因は、日本人の「心」ではないだろうか。子供が親の世話をせず、また親も子供に面倒を見てもらわないことが至極当然な今の時代では、若者がより文化度の高いところに、好奇心と向上心を持って飛び込んでいく姿は定着している。すなわち、文化度の高いところに自分の幸福があるという考えを、いつの頃からか多くの日本人が信じている。この考えが変わらない限り、離島・へき地での人口減少は続いていくのであろうし、変わるには20年、あるいはそれ以上かかるかもしれない。

もちろん、地方の人口減少に対して行政が危機感を持ち、職場を作ったり、留学生や観光客を呼び寄せたりして地方の活性化を促すことは大切である。しかし、今の行政は人口減少を食い止めることだけに集中し、片手落ちになっていないだろうか。医療を提供する側としては、現実をしっかり見据えて訪れる未来に対処し、いつでも質のいい医療を提供できるようなシステムを作っておく必要がある。そのためには行政と一緒になって、離島・へき地が崩壊しないような町づくりを今のうちに考えておくことが重要だろう。

数年前、欧州の地方をいくつか訪ね歩いたことがある。同じように人口減少は起きているが、一千～二千名の小さな町でも、子供からお年寄りまで幅広い年齢層が生活し、それなりに町としてしっかり機能していると感じた。**つまり、日本の地方は単なる人口減少だけでなく、そこに住む年齢層がいびつであることが問題だとわかる**。欧州の都市づくりは、長い歴史を経て**コンパクトタウン構想**が定着しているように思えた。

私は、離島・へき地の人口減少を乗り切るには、**コンパクトシティ**や**コンパクトタウン**が効果的だと考えている。実は前号を発行した後、偶然にも同じようにコンパクトシティやコンパクトタウン構想に関する書籍の広告を目にし、感心したことがあった。村上敦氏の「ドイツの

コンパクトシティはなぜ成功するのか」という単行本である。国土交通省は03年ごろからコンパクトシティの構想を掲げて、地方都市の人口減対策や中心市街地の活性化を図るために対処してきた。しかし、コンパクトシティ構想に取り組んできた富山市や青森市からは、10年以上たった今も成功の言葉は聞こえてこない。このことに対し、村上氏は物申したのである。

いま、長崎県は『**小さな楽園の拡大連携**』というプロジェクトを進めている。過疎地域の人口減を受け止め、住民が主体となって集落の維持・活性化に取り組む「小さな拠点づくり」を支援し、先進事例やその仕組みを県内全域に広げようとしている。地域ごとに商店街、医療機関、介護施設、図書館、公民館などが一体となったコンパクトタウンづくりが必要になってくると言いたいのであろう。今後一層の高齢化が進むと、散在する集落における電気・水道・ごみ収集などのインフラ維持が難しくなるし、何よりも医学的側面から言うと、住民同士のコミュニケーションが少なくなれば、それだけ認知症の発症割合が増加することは証明されている。長い時間がかかると思うが、地方にも幸福があると理解される時まで持ちこたえる町づくりに、今から取り組んでおく必要があるのではないかと思っている。

病院TOPIX Vol.4

～ 有川医療センターで在宅血液透析を導入～

2016年9月、有川医療センターで島内初の「在宅血液透析（以下、「HHD」）」が導入されたのをご存知でしょうか。

HHDは、施設透析とちがって時間や回数を自分で決めることができる反面、患者さん自身で自己管理を徹底しなければならず、導入には医療スタッフの指導やサポートが不可欠です。

「HHDでもっと元気になりたい！」という患者さんの強い想いに応えるべく、有川医療センターのスタッフの皆さんが立ち上がりました。

まずは指導環境の整備（スタッフの研修・教材づくり）そして現地調査

- 疾患のことや機械の操作方法など、たくさんの専門的な事柄をきちんと教えられるんだろうか？と不安でいっぱいでした。
- 講義のDVDを作成しました。また、マニュアル作成には時間をかけ、わかりやすいようにと写真を豊富に取り入れてみましたが、患者さんには「わかりづらかった」と言われ…ショック！

- 在宅透析には、水回りの整備も必要です。患者さんのご自宅の排水関係では、行政とも話し合いました。

患者さんや介助の方への指導を開始

- 医療用語をわかりやすく教えることの難しさを痛感しました。
- 講義のあとには毎回テストを行い、合格点を取れるまで追試して理解度を確認しました。

- 「つなぐノート」で患者さん側と想いの共有をはかり、気持ちが折れそうになっていると感じたら何度も個別で話し合いました。時には患者さん側との気持ちがすれ違うこともあり、スタッフ側の心のゆとりの無さが招いたことだと反省しています。

2014年8月　患者さんへの実技指導を開始
2016年9月　第1回目のHHDを実施

長かった2年！

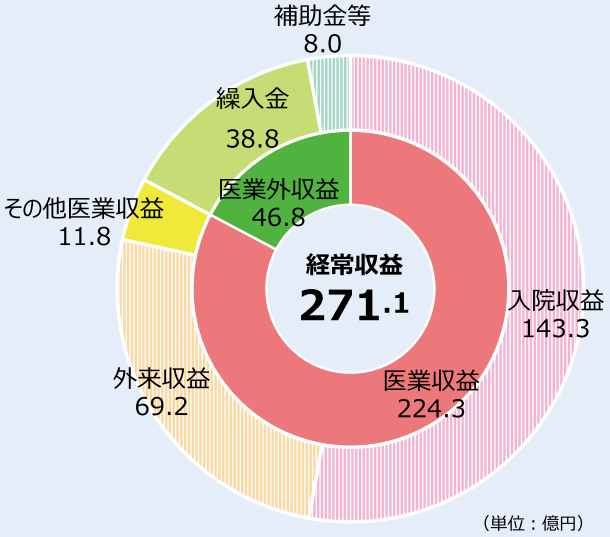
何もかもが手探りで、「今のやり方で正しいのか？」と何度も悩みましたし、通常業務との並行で負担もありました。

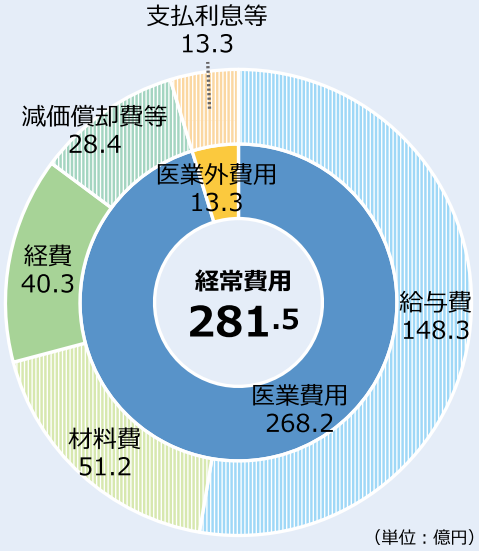
それでも、患者さんとご家族が喜んでいる様子や、自分の生活リズムをつかみ、活き活きと過ごされている患者さんの姿を見ると、「とても大変だったがHHDが実現できてよかった」と実感できるようになりました。

Zoom up! 特集①

平成28年度決算見込み概要

下の円グラフは、病院企業団の平成28年度の決算速報値を表したものです。





入院収益：143.3億円（対前年＋5.2億円）
外来収益：　69.2億円（対前年＋2.4億円）
繰 入 金：　38.8億円（対前年▲1.6億円）

給 与 費：148.3億円（対前年＋2.9億円）
材 料 費：　51.2億円（対前年＋2.1億円）
経　　費：　40.3億円（対前年＋0.6億円）

経常損益	▲10.4億円
医業損益	▲40.1億円

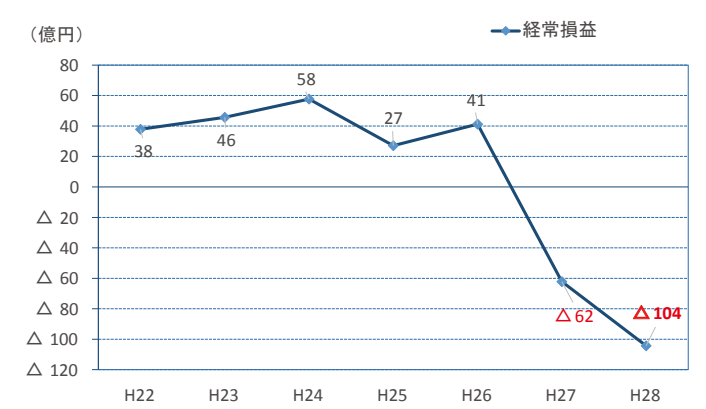
POINT 1

本業である医業収益のうち、その大部分を占める入院・外来収益は約２１２.５億円で、外来患者数が減少しているものの、入院患者数の増加や１人１日当たりの診療単価が入院、外来ともに増加したことから、昨年度と比較し約７.６億円増加しています。

収益的収支における構成団体（県・市・町）からの繰入金は約３８.８億円で、総収益の約１４％を占めています。

繰入金とは？　地方公営企業法に基づく基準により、政策医療（結核・精神）を提供するために必要な経費などを構成団体が負担するものです。

経常損益の推移



※平成26年度より新会計基準へ移行
※平成27年度から壱岐病院加入

POINT 2

平成２８年度の経常損益は、約１０.４億円の赤字となりました。昨年度と比較し、医業収益が約７.９億円増加したものの、対馬病院開院に伴う減価償却費の増などにより、医業費用が約１２.２億円増加したために、医業損益が昨年度から約４.３億円悪化したことが大きな原因です。

経常損益の改善のためには医業損益の改善が必要不可欠です。そのためには患者数の増加による増収と経費の節減に努めなければなりません 。

経常損益とは？

医業収益及び医業外収益から、医業費用及び医業外費用を差し引いたものをいいます。
一会計年度における経営成績を表しています。

病院ごとの経常損益

（　）は昨年度との比較

POINT 3

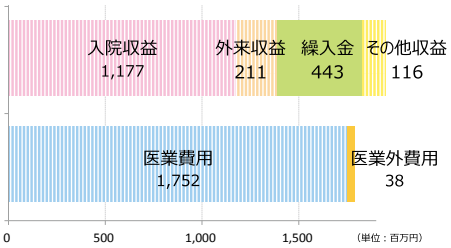
企業団が目標とする「地域ごとでの経常損益の黒字化」については、精神医療センターを除く各地域で赤字となり、残念ながら目標達成できませんでした。

人口減少や高齢化の進行が予想される中、今後も地域に必要とされる医療体制を維持するため、本土の医療機関を受診される患者さんのうち、地域内で治療可能な患者さんに地域内で受診していただけるよう、“郷診郷創”「地域での受診が、地域を創る」をスローガンに掲げ、信頼される病院づくりに努めてまいります。

◆精神医療センター◆

経常損益

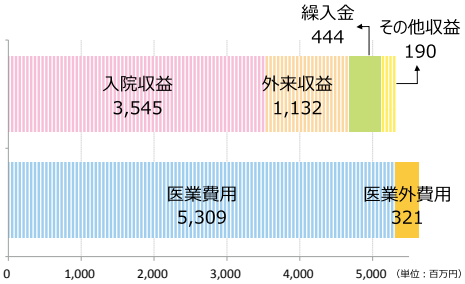
1.6 億円（+0.2億円）



◆島原病院◆

経常損益

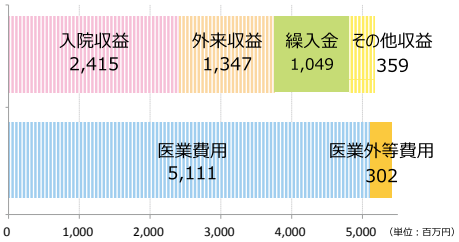
▲3.2 億円（▲2.1億円）



◆五島中央病院◆
（附属診療所含）

経常損益

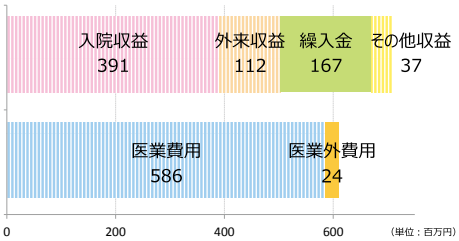
▲2.4 億円（▲1.2億円）



◆富江病院◆

経常損益

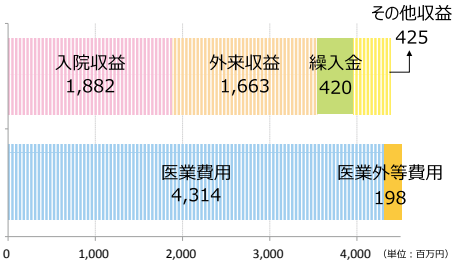
1.0 億円（+0.3億円）



◆上五島病院◆
（附属診療所含）

経常損益

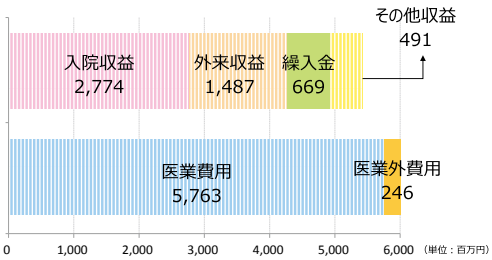
▲1.2 億円（▲0.7億円）



◆対馬病院◆

経常損益

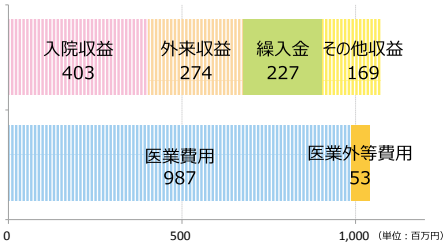
▲5.9 億円（▲2.1億円）



◆上対馬病院◆

経常損益

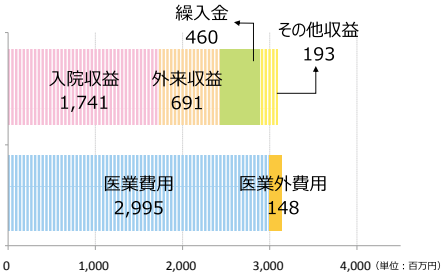
0.3 億円（+0.8億円）



◆壱岐病院◆

経常損益

▲0.6 億円（+0.6億円）



“郷 診 郷 創”　『地域での受診が、地域を創る』

現在、各病院・地元自治体のご協力のもと患者アンケート、住民アンケートを実施し、情報収集、分析を進めています。

今後は、分析に基づき、域外への患者流出対策の検討目標・設定を行い、７月以降に病院企業団全体で具体的な取り組みを進めていく予定です。

信頼される病院づくりのため、各職場でできることから一つ一つの改善を積み重ねていきたいと考えています。

次号以降は各病院の郷診郷創の取り組み事例を紹介していきます。

Zoom up! 特集②

「DPC導入」と課題 －シリーズ③・最終回－

平成30年度の導入に向け、お届けしてきたシリーズもいよいよ最終回です。
最後にクリニカルパスについて紹介します！

クリニカルパスについて

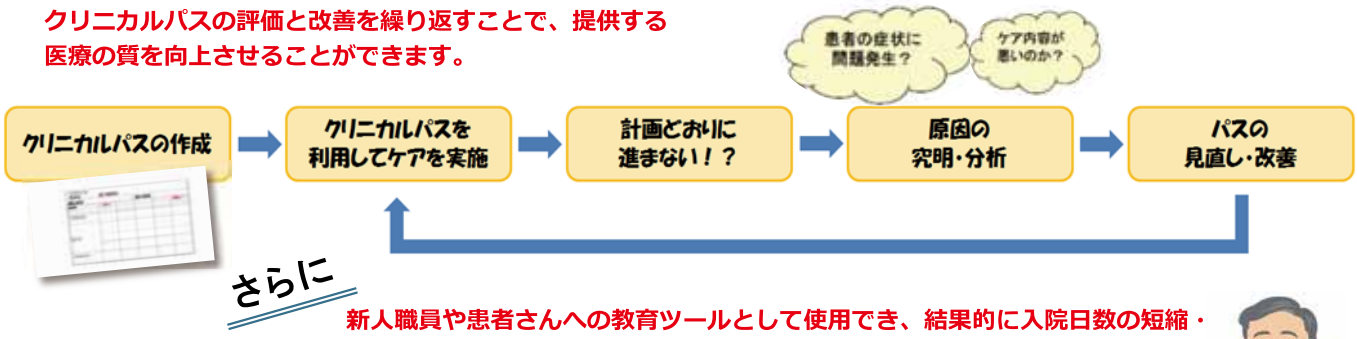
DPC対象病院においては、コスト削減や入院日数の短縮等、医療をできるだけ効率的に提供することが求められる一方で、質を落とすことなく、適正で分かりやすい医療を提供することが求められます。
そのマネジメントツールとして活躍するのが、今回のテーマであるクリニカルパスです。

定義と運用

クリニカルパスとは、一定の疾患や検査ごとに、入院から退院までの診療内容を標準化・最適化し、スケジュール表（パス表）として表したものです。

▶ クリニカルパス運用の流れ

クリニカルパスの評価と改善を繰り返すことで、提供する医療の質を向上させることができます。



さらに

新人職員や患者さんへの教育ツールとして使用でき、結果的に入院日数の短縮・医療コストの削減など病院経営も改善される!!

クリニカルパスを作成するために

クリニカルパス委員会の立上げ

委員会では、新たに作成するパスの選定、作成されたパスの承認・登録および使用実績の確認など、パスの質の改善と普及のための戦略を検討します。メンバーには、対象パスの医療ケアに関わる全職種が参加し、その中でも医師は、診断・治療方針を立てるという重要な役割を持ちます。

パス新規作成および見直しの対象となる症例の把握

全てのDPCコードごとにパスを作成し、定期的な見直しをすることは望ましいですが、物理的には不可能に近いと考えられます。よって、自院にとってパス管理を必要とする症例とはどのようなものかを把握します。

【対象症例（例）】症例数の多い症例、パターン化しやすい症例、スタッフの関心が高い症例　etc

全科統一のルールを決める

作成方法、使用方法、フォーマット、適用基準（除外基準）などは、全科統一のルールを決める必要があります。
科を問わず、すべての職員が使うことのできるパスの作成を目指しましょう。

まとめ

これまでのシリーズでテーマとした「機能評価係数Ⅱ」「DPCコーディング」「クリニカルパス」は、DPC制度において欠かすことのできない重要な要素であるとともに、達成すべき大きな課題です。
平成30年度からのDPC導入に向け、病院全体、全職員が一丸となって準備を進める必要があります。

ちょっといいはなし

平成29年度 新規採用職員研修 in やすらぎ伊王島（6月6･7日開催）

新規採用職員研修は
1）長崎県病院企業団の概要および現況を知ることができる
2）病院企業団職員として医療人として自覚と責任ある行動ができる
3）他施設職員との円滑なコミュニケーションを図り親睦を深める
を目標として開催しています。

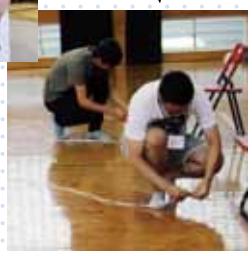
◇米倉企業長講演◇

◇一次救命処置の基本手技と救急処置研修◇

医療に携わる者として実践に活かせるよう身に付けておく必須アイテムです

盛り上がった懇親会♪

せっせと紐を繋いでます(汗)



今年は、医療人としての自覚と責任のもと救命処置の基本を学び、地域住民の健康生活に貢献することをめざして、一次救命処置講習を実施しました。

救命処置講習は座学ではなく実技が中心ですので、例年以上に体を動かすことが多い研修になりました。

２日目はミニオリエンテーリングを計画し、雨天決行のつもりで準備していましたが、予想以上の悪天候のため、体育館での活動となりました。

ミニオリエンテーリングが実施できなかったのは残念ですが、グループで協力することを通じ、学ぶだけでなく、職員同士の繋がりを深めることができたのではないかと思います。

本部転入者紹介

◆副企業長　安永 留隆◆

担当業務は、病院や本部の各種文書の決裁や困りごとの相談などに対応しています。

（趣味・休日の過ごし方）

街中を歩きまわることが好きで、休日は諫早市内の散歩をしています。最近すぐに疲れる（６階までの階段を上るのがきつくなった）ので、体力回復が目標です。

◆企画経営班　課長補佐　大町　隆◆

担当業務は、委員監査や高度医療機器整備に係る構成団体との協議等です。

（趣　味）

将棋です。最近、天才中学生棋士　藤井四段の活躍で話題に取り上げられることが多くなりました。普段は、スマホアプリでネット対戦したり、詰将棋を解いたりしています。

◆総務人事班　係長　西川 由香里◆

担当業務は、人事、組織、事務長会議、地域医療研究会等です。ふくよか編集にも携わります。

（好きなもの）

前勤務の水産部でおいしい魚に出会ったおかげで日本酒にもハマりました。県産酒もですが、最近は全国の日本酒を置いているお店が増えてきたのが嬉しいかぎりです。

◆企画経営班　主任主事　中村 盛嗣◆

担当業務は、共同購入事業、経常収支報告、決算等です。病院勤務で経験したことを活かして、業務に取り組みたいと思います。

（休日の過ごし方）

最近は、アウトドアに興味があり、公園や山、海などに行き、自然の中で過ごすことが多いです。

どうぞよろしくお願いします

Break Time

「図書館に行ってみませんか？」

皆さん、こんにちは。今号からふくよかブレイクタイムを担当します安永です。拙い文章ですが、皆さんのお役に立てるような話題を取り上げたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。
今回の話題は、「図書館に行ってみませんか？」にしました。本屋さんからはお叱りを受けそうな題名ですが、少しだけお付き合いください。

私は、だいたい２週間に１回、必ず図書館に行くようにしています。通勤途中で読む本や、その時々に興味を持っているテーマ（最近のマイブームは、自衛隊の装備に関すること～戦闘機やオスプレイなど～です）に関する本あるいは仕事上のヒントを得られそうな本を探して、図書館内を徘徊し、お目当ての本を見つけ出しては、借りたり、その場で立ち読みしたりしています。また、議会前の土日には図書館に出かけて行って関係資料などについての勉強もしています。（学生の頃は図書館で勉強することなど一度もありませんでしたが・・・。）
私がよく行く諫早図書館は、近くにある諫早高校や、附属中学校の生徒が来てよく勉強しています。そういう姿を横目で見て、自分も頑張ろうと思いながらも、時々、睡魔に負けてうとうとしたりすることもあります。
図書館は知識の宝庫でありまして、さまざまなジャンルに区分された資料や図書が書架に並んでいます。知的好奇心を満たすにはもってこいの場所です。読書や勉強に疲れたときは、雑誌コーナーで息抜きをすることができます。息抜きのほうがたまに長くなったりするのは困ったものですが・・・。

自宅近くの図書館までは、たいてい歩いて行きます。片道２０分くらいで、往復７０００歩～７５００歩、歩きます。健康増進にも少しだけ役に立っていると思います。長崎県の成人の１日あたりの歩行数は、男性約７０００歩、女性約６０００歩で、県では男女とも＋１０００歩を目標にしていることもあり、できるだけ遠回りをして行くようにしています。
図書館に１日いて本ばかり読んでいると、それはそれなりに疲れるものですが、たまに館内のホールでミニコンサートなども開催されており、文化にも触れる機会があります。さらには、お昼を食べに図書館を出て近くの栄町アーケードを歩くと、地方都市の中心街のさびれようを目の当たりにして、街づくりの在り方に思いを巡らすこともあります。

このように、日々の生活にちょっとしたアクセントをつけてくれる図書館は、皆さんがお住まいの市や町に必ず１か所はあるはずです。たまには出かけて行って、知的好奇心を刺激してみませんか？

（文：副企業長　安永　留隆）

編集後記

みなさん　こんにちは！
じめじめとした梅雨が終わり、今年も夏がやってきました！
今年は「酷暑」と予想している気象予報士の方もいるようです。
海や山、河など夏ならではの楽しみを見つけて酷暑を乗り切りましょう！！

ふくよか

表紙のはなし　　新規採用職員研修

平成２９年６月６日～７日に新規採用職員の研修が行われました。研修初日に梅雨入りとなり、あいにくの天気となりましたが、室内での研修で親睦を深めました。

平成29年7月発行
編集・発行／長崎県病院企業団本部
〒850-0033　長崎市万才町4-12　日本生命ビル旧館6階
TEL.095-825-2255　FAX.095-828-4759
E-mail：honbu@nagasaki-hosp-agency.or.jp
URL：http://www.nagasaki-hosp-agency.or.jp/

長崎県病院企業団　検索